

めぐろYouthミーティング



意見に対する区の取り組み



若者の居場所

児童館や図書館の自習スペースは駅から遠くて使いづらいので、駅の近くに自習スペースがあるとよい。

<区の取り組み>

- 駅の近くに自習スペースがあると便利に感じますね。令和7年6月に実施のMEGUROこどモニターにおきましても、気軽に使える勉強スペースがあるとよいとの声がありました。
- 自習スペースにつきましては、各住区センターでさまざまな取り組みをしています。碑住区センターでは、令和7年7~8月の夏休み期間中、コミュニティルームを学習室として夏の勉強場所にしました。
また、2か所の住区センター(下目黒と不動)のコミュニティルームでは、夏休み子どもの居場所(住区センター施設管理者の自主事業)として自習や読書ができるようにしました。利用状況や利用者アンケートを踏まえ、2か所の住区センター(下目黒と不動)では引き続き、令和8年2月末(予定)までコミュニティルームを自習スペースとして利用できるようにしました。
- また、年間を通して2か所の住区センター(月光原と碑)のミーティングコーナーを広い世代の学習スペースとして活用しています。

既存の施設を使って、若者向けのイベント(屋外で映画、ピラティスなど)ができればよい。

<区の取り組み>

- イベントとして屋外での映画鑑賞やピラティスは開放的であり、素敵な提案ですね。
- 区では令和4年に多様な区民活動に適切に対応し、さまざまな団体や区民同士の交流・連携・協力を促すことで、活動の支援・充実を一層図っていく観点から貸室のあり方見直しを行いました。
- 皆さんならではの視点を生かすため、若者向けイベントの検討に当たっては、例えば、令和8年度以降に開催の「未来の目黒をプロデュース!!『めぐろスマイル会議』」で取り上げる検討テーマの候補のひとつとしたいと思います。



地域交流

高校生や大学生が子どもの勉強をみてあげて、話し相手になる活動ができれば、子どもが相談できるお兄さんお姉さんとなってよい。

<区の取り組み>

- 子どもにとって、年齢の近い頼れるお兄さんお姉さんがいることは心強いことですね。
- 児童館の活動におきまして、高校生と中学生、中学生と小学生の交流は異年齢交流として取り組んでいます。この中で勉強をみることはあります。意見でいただいたような視点を踏まえつつ、今後、取り組みを進める中でどのようなことができるか考えていきたいと思います。
- また、区では生活に不安を抱えている世帯のお子さんを支えていく取り組みの一環として「子どもの学習・生活支援事業」を実施しています。この事業の実施に当たっては、ボランティアスタッフを募集しています。中学・高校生への学習支援に興味がある皆さんには、区公式ウェブサイトをご覧ください(二次元コード参照)。
- さらに、中根住区住民会議では、「なかねスタディサポートルーム」を立ち上げ、地域の大学生がボランティアとして、中根住区センターで子どもたちの気持ちに寄り添いながら、学習支援を行っています。



高齢者と若者の距離が離れていると感じているので、両者が一緒に語り合えるオープンな場所があるとよい。

<区の取り組み>

- さまざまな世代の方と交流することはお互いの刺激になりますね。令和7年6月に実施のMEGUROこどモニターにおきましても、年齢や世代を問わず交流できるスペースがあるとよいとの声がありました。
- さまざまな世代の交流を事業として具体的に展開しようとすると、どのような場所・スタイルがふさわしいかなど内容を検討していく必要があります。
- いただいた意見をきっかけとして、まずは区としてどのような取り組みができるか他自治体の事例などを調べていくことからはじめたいと思います。



子どもの体験

区内大学に通う留学生たちとの国際交流パーティのような、外国の方と交流できる場所があるとよい。

<区の取り組み>

- 区では目黒区国際交流協会と連携し、区内大使館や外国人との交流の場として、国際交流フェスティバルなどを行っています。また、この他にもさまざまな体験活動などを通じ、外国人との交流機会の創出に取り組んでいます。

- また、駒場住区住民会議では、東京大学や東京科学大学の留学生と交流会を年3回開催しています。お花見やショートトリップなどを通じ文化交流を図っています。
- このほか、住区住民会議では、誰でも参加できる開かれたコミュニティとして地域の課題の解決に向けて地域づくりを進めています。ご興味があれば、区公式ウェブサイトをご覧ください(二次元コード参照)。
- いただいた意見も参考にしつつ、国際交流を通じ、異なる文化・価値観に触れ、理解を深めるとともに、互いの文化を認め合い、共に生きるまちづくりを目指していきます。



海外へ出ることで視野を広げることができるので、区の友好都市と連携した企画を増やしてほしい。

<区の取り組み>

- 日本と異なる文化・価値観に触れ、理解を深めていくことは皆さんの視野を広げることにつながりますね。
- 区では友好都市である中国北京市東城区と韓国ソウル特別市中浪区とともに、スポーツ交流等の三区間交流事業を実施しています。参加者からは「自分や周りの状況を客観視する視野が広がった」という感想が届いており、有意義な交流事業だと考えています。
- 一方で、交流事業は社会情勢に左右されることもあるため、連携した企画の新たな創出は時間をかけて取り組んでいくことと捉えています。
- 友好都市ではありませんが、ポーランドのワルシャワ市シルドミエシチェ区と今後の友好交流について、やり方も含め検討している状況です。



区の広報・PR

TikTok や Instagram で区長の 1 日を動画で掲載したり、自由が丘といった区内のおしゃれな場所を発信したりしていくと PR になってよい。

<区の取り組み>

- 区長は何をしているのか気になりますよね。また、次の項目にも関係しますが、若者向けの情報発信に当たっては、TikTok や Instagram といった新たな SNS ツールを活用することも考えられますね。
- 区では、オウンドメディアの「めぐろプラス」で情報を発信しています(二次元コード参照)。「めぐろプラス」は、区にまつわるさまざまな情報を、ビジュアルを活かしてわかりやすく、そして親しみやすくお届けするウェブマガジンです。取り上げる内容は、皆さんからいただいたご意見も参考にしながら、より魅力的な情報を発信していきたいと考えています。
- まだ「めぐろプラス」をご覧になったことがない方は、ぜひ一度チェックしてみてください。感想やご意見もお待ちしています。



若者向けの情報が入手しにくい。若者向けの区のウェブサイトや LINE アカウントがあるとよい。

<区の取り組み>

- 必要なときに必要な情報をしっかりとキャッチしたいですね。
- 区では、LINE や X、YouTube などの公式 SNS アカウントを運営しています。フォローすると、イベントや最新のお知らせをチェックできるほか、知りたい情報も検索機能で簡単に調べられて便利です。
ぜひ、公式 SNS を使って、区の情報をもっと身近に感じてみてください！
- 一方で、情報へアクセスがしにくいとの指摘は、区としての課題と認識しています。リアルな状況を知っているのは皆さんであるため、令和 8 年度以降に開催の「未来の目黒をプロデュース!!『めぐろスマイル会議』」で取り上げる検討テーマの候補のひとつとしたいと思います。



その他の意見

商店街や駅前に自転車が停まっているので、自転車置場をもっと増やしてほしい。

<区の取り組み>

- 自転車を路上に放置すると通行の妨げになるばかりではなく、災害時の避難活動や緊急活動の障害となり活動の妨げになります。
- 区でも駅周辺の駐輪施設の収容能力不足は、課題だと考えています。しかし、駅とのアクセスが良好な駐輪場用地を区独自で確保することが難しく、中長期的な視点からの設置検討を行っています。
- 自転車を停める場所は、通勤通学の自転車利用者による活用を想定し、駅周辺に駐輪場 16 か所、自転車置場 6 か所を設置(令和 7 年 11 月現在)しています。自転車置場は駐輪場と異なり、緑道上等のスペースを暫定的に活用した場所です。

奨学金の貸付型は借金だと感じる。奨学金制度では、地域活動なども評価に入れてほしい。

<区の取り組み>

- 貸与型の場合は、後々に奨学金を返還していかなければならないため、借金と感じることもあります。
- さまざまな団体が実施している奨学金の大半は貸付型となります。給付型も充実してきているところです。また、貸付型の奨学金返還を支援する取り組みも広がっています。このような奨学金制度を取り巻く動きは区としても注視しています。
- 若者施策のひとつとして、新たな奨学金に係る取り組みの検討に当たっては、例えば、令和 8 年度以降に開催の「未来の目黒をプロデュース!!『めぐろスマイル会議』」で取り上げる検討テーマの候補のひとつとしたいと思います。

自分たちでイベントを開催したいので、会議室などを使いやくしてほしい。

<区の取り組み>

- ご自身の手でイベントを開催したいという熱いパッションを感じますね。
- 区では令和4年に多様な区民活動に適切に対応し、さまざまな団体や区民同士の交流・連携・協力を促すことで、活動の支援・充実を一層図っていく観点から貸室のあり方見直しを行いました。
- 利用に当たり、手続きなしでふらっと使えるようにすることは難しいですが、例えば、利用枠を3区分(午前・午後・夜間)から4区分(午前・午後①・午後②・夜間)に見直しするなど使いやすくするための取り組みを進めています。

